

医療を通じて人と地域を結ぶメディカル情報誌

あかね akane

vol.32
2014
Winter

Close Up 土谷総合病院 心臓血管外科

広島県下初の治療方法「TAVI手術」導入
子どもたちの将来を考慮した手術

Topics 土谷総合病院 地域医療連携室

新たなスタッフで臨む「顔の見える医療連携」



土谷総合病院 心臓血管外科スタッフ

いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう



医療法人あかね会

理事長挨拶

2014年9月24日、土谷総合病院は、経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)の実施施設として認定を受けました。全国で36番目、広島県では、最初の認定です。9月26日には、中国新聞朝刊で、「カテーテル使い心臓に人工弁装着 土谷総合病院TAVI認定」の見出しで、大きく取り上げていただきました。10月25日には、TAVIを含め、土谷総合病院の医療をさらに、詳しく知っていただきたく、土谷総合病院 病診連携交流会を開催いたしました。土谷総合病院が、病院全体として病診連携交流会を開催するのは初めてでしたが、多くの先生方にご参加いただきました。あらためて御礼申し上げます。同時に、土谷総合病院での心臓病治療に焦点を当てた「土谷総合病院 心臓病 最新治療のお話」(南々社:税別700円)を出版しております。土谷総合病院には、循環器内科・心臓血管外科以外にも、高い評価をいただいている診療科がいくつもございます。あかね会全体では、医療・介護の幅広い分野をカバーし、地域包括ケアにも積極的に取り組んでおります。

今後とも、あかね会の理念「いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに、明日の医療のあり方に機能しよう。」を地道に追求したい、と考えております。

医療法人あかね会
理事長

土谷 晋一郎

Tsuchiya Shinichiro



土谷総合病院、 成人心臓血管外科の 目指す医療へ

広島県下トップクラスの
経験と成績を誇り、
心臓血管外科専門医の元、
新しい治療法も
積極的に導入しています。

●土谷総合病院 心臓血管外科

土谷総合病院、成人心臓血管外科の目指す医療心臓血管外科は、現在顧問の望月高明先生が30年以上構築してきた部門で、広島県下トップクラスの経験と成績を誇っています。

昨年の2013年9月に内田医師が広島大学病院から土谷総合病院に配属となり、当院の基本理念「いま求められている医療の最高レベルを目指すとともに明日の医療のあり方に機能しよう」の通り、山田医師、内田医師、古川医師、望月慎吾医師の4名の心臓血管外科専門医の元、新しい治療も積極的に導入しています。その背景には、高齢化・情報化社会の現在、患者さん個々の体力・病態・希望に合わせた最適な治療を提供すべく、最先端手術をはじめ様々な治療方法を選択していただけるよう配慮しています。また治療の安全性を担保するために、院内チーム医療を充実し、術前・術後の患者説明にもしっかり時間をかけて行うように努力しています。

心臓血管外科では、夜間、休日も含め、常にスタッフが院内に待機しており、院内・院外

の緊急を要する事態にも迅速に対応できるような体制を取っています。また、出生直後の新生児から90歳代の超高齢者まであらゆる疾患に幅広く対応しております。ここでは、当院での主な取り組みを紹介します。

写真の「土谷総合病院 心臓病 最新治療のお話」は、心臓血管外科、循環器内科の医師が中心となって内容を編集しております。書店または、土谷総合病院で税別700円で販売しております。





広島県下初 土谷総合病院で TAVI手術が 可能となりました

TAVI手術とは
経カテーテル大動脈弁治療のことで、
重症の大動脈狭窄症に対する
新しい治療方法です。

●土谷総合病院 心臓血管外科
部長 内田直里



1. 弁膜症手術

① 大動脈弁疾患

加齢や生活習慣病による動脈硬化による大動脈弁が硬化するために発症する、大動脈弁狭窄症の患者さんが急増しています。65歳以上の2~4%の割合で、本病気に罹患すると考えられており、重症化すると数年以内に心不全や突然死するため、大動脈弁を新しい人工弁に置換する手術が推奨されています。当院では2014年10月からカテーテルによる低侵襲手術TAVI(後述)を導入し、患者の体力と病態に合わせた手術選択を提供しています。

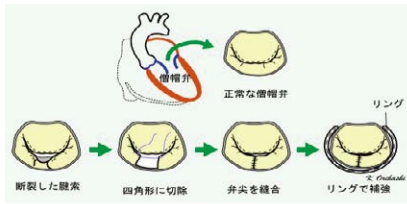


◀ 硬化した大動脈弁

② 僧房弁疾患

酸素化した血液が肺から心臓に戻ってくる扉が僧房弁です。僧房弁が完全に閉まらず隙間ができることで、循環血液が逆流し、肺に負担がかかり、息切れなどの心不全を発症する病気が近年、増加しています。代表的な原因は、僧房弁を開閉している腱索が切れるため、心機能が悪くなることで僧房弁を開閉する乳頭筋の機能が低下するための2つがあります。高度の逆流は、内服治療では対処できず、外科的に人工弁に置換するか、弁形成術(自己の弁を残して、弁を修繕する方法)かの2つがあります。人工弁に置換すると、機械人工物や牛心膜・豚弁などの

異物による血栓の問題、耐久性の問題、心機能低下の問題などがあり、極力自己の弁を温存した弁形成術を行うことを心がけています。



▲ 僧房弁形成術
漏れている弁を修繕し、弁周囲にリングをあてて補強する手術

③ 小切開手術

術前CT検査や心エコーなどで評価し、安全に小切開手術可能と判断した患者さんに限って、皮膚切開を従来の3分の1程度の7~8cmの小切開で行っています。

④ TAVI手術

重症の大動脈狭窄症に対する新しい治療方法です。胸骨切開することなく、また心臓も止めることなく、カテーテルを使って人工弁を心臓に留置する方法です。利点は、切開が非常に小さくて済み、また人工心臓も使用しなくて済むことから、患者さんの体への負担が少ない治療です。高齢やその他の病気で体力が低下した患者さんが対象で、そのうちエコー・CT検査でカテーテル留置可能と判断されれば、実際にTAVIが施行されます。現時点では、透析患者さんは対象外です。

2. 冠動脈バイパス術

心臓を養っている動脈(冠動脈)が動脈硬化で狭くなっている部分を直接治療するのではなく、

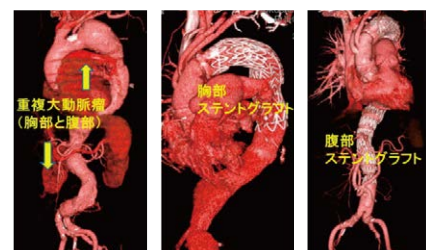
その先の動脈硬化のないきれいな場所に自己の血管を使って吻合し、不足している血流を新たに回復させる方法です。冠動脈バイパス術も手術という負担を被りますが、一旦バイパスが完成すると長期にわたり虚血が改善する可能性が非常に高い方法です。

最近では、長期の開存性が期待される動脈グラフトを多用し、多岐にわたる完全血行再建術を、心拍動下にバイパスすることを心がけています。

3. 大動脈手術

動脈瘤は破裂するまではほとんど症状がなく、ある日突然破裂死に至る非常に恐ろしい病気です。最近では超音波エコー検査やCT/MRI検査などで偶然発見されることが多くなっています。一般的に動脈瘤が胸部で5cm以上、腹部で4cm以上あれば破裂の危険性があり、手術が考慮されます。基本的に無症状の病気なので、個々の患者さんとしっかり話し合ってから、最終的に手術を行います。

最近では、高齢者の方やたくさんの持病を抱えている方には負担の少ないステントグラフト治療を行っています。当院では動脈瘤の約半分の方がステントグラフト治療の対象となっています。



▲ ステントグラフト内挿手術前後のCT



Close Up

子どもたちの 将来を考慮した 手術への努力

「Quality of life=生活の質」

健全なお子さんと
同等に確保できるよう、
できるだけそれに近づけるように
努力を重ねております。

●土谷総合病院 心臓血管外科

部長 山田和紀

先天性心疾患

先天性心疾患とは、生まれつきの心臓の病気のことです。心臓は生まれつきの病気が最も多い部位で、出生100人に1人程度の頻度とされています。治療の必要がない軽症の場合もありますが、症状がある場合の多くは手術が必要となります。疾患の種類は多岐にわたりますが、基本的には胎児期に心臓が形作られていく過程で、特定の部分がうまく完成しなかったことから生じます。手術の時期は、疾患の種類や状態によって異なり、生後直ちに手術が必要な場合から、成人になるまで待つことができる場合までさまざまですが、ほとんどは小児期に手術が行われます。早い時期に疾患を解決しておいた方が長期的な成績がよいことが多く、手術の安全性の向上もあって、手術時期は時代とともに早期化する傾向にあります。

小児の心臓手術は、成人の手術をただ小さくしたものではなく、大きく性質の異なるものです。成人の疾患のように、一旦は正常にできあがって、後に支障をきたした心臓や大血管を治療するのではなく、初めから形態に問題のある心臓・大血管を正常な形に近づけるよう修復する手術です。さらに、成人よりも長期にわたる成績が求められること、成長の問題がからんでくることなどがあり、対象が成人よりもはるかに小さいことと相俟って、非常に特殊な知識と技術が必要となります。そのため、現在広島県には心臓手術を行っている施設は



▲ 心室中隔欠損の手術創

14施設ありますが、先天性心疾患の手術を行っている施設は2施設しかありません。当院はそのひとつで、年間約60件の手術を手懸けております。

最も多い疾患は、心室中隔欠損症という、左右の心室間の隔壁に穴が残っている疾患です。人工のパッチを縫着して穴を閉じる手術を行います。手術の危険性は限りなくゼロに近づいてきています。そこで、現在は美容も考慮した努力も行っています。前胸部の正中に縦の皮膚切開を行います。当院では乳首の高さのレベルまでの小切開による手術を行っています。手術件数が多い乳児の場合は、4cm程度の傷になり、特に女性では平素の服装は勿論のこと、水着であってもかなり隠れることが期待されます。

左右の心房間の隔壁に穴が残っている疾患は心房中隔欠損症と呼ばれます。最近ではカテーテルによる治療も可能になっており、当院でも行っています。しかし、大きさや形態の関係で治療が必要なケースのうち半分くらいは外科的な手術が必要となります。そのほかにも、長期的な成績やかなり大きな人工物が体内に残ることに不安を感じて、外科手術を希望されることも少なくありません。ほとんど傷が残らないカテーテル治療との差を縮めるべく、この疾患についても小切開や目立たない部分の切開からの手術に取り組んでいます。成人になるまで症状がないことが多いのですが、手術をする場合は就学前に済ませるようにし

ています。これくらいの年齢では、身長4～5%の皮膚切開で手術を行っています。

その他さまざまな疾患があり、その全てについてここで触れることはできませんが、複雑な疾患では、一度の手術では完結できず、複数回の手術が必要になったり、カテーテル治療と組み合わせたりすることも少なくありません。そのため、子供たち本人やご家族に肉体的にも精神的にも大変な負担がかかってしまうこともあります。その負担を少しでも軽くしつつ、健全なお子さんと同様の「Quality of life=生活の質」を確保できるよう、それが難しい場合でもできるだけそれに近づけるように努力を重ねております。なお、当院は広島県で唯一の胎児心臓超音波検査専門施設で、出生前に診断を行って出生時から小児科医が立ち会い、迅速に治療を開始することで治療成績の向上を図っています。

先天性心疾患の手術も日々進歩しており、以前は救命できなかったような子供たちも助けることができるようになってきました。それでも依然として治療の難しい重症の疾患もあり、当院でも残念ながら全てのお子さんを救うことはできないのが現実です。しかし、小児科医、麻酔科医、手術室や病棟の看護スタッフ、さらには子供たちの生命力に助けられながら、全国的な標準以上の成績は残せているものと自負しております。



Voice of Staff

患者さまのために 強い“志”を持って支える スタッフがいます

常に笑顔を決やさず
患者さまに安心感を与えることが
病院スタッフとしての使命です。
そこで、当院で働く元気いっぱいの
スタッフをご紹介します。



子どもとともに頑張っています!

理学療法士としての臨床経験は20年になります。と言っても心臓リハビリの経験は6年ほどでまだまだ勉強が必要な私です。

最近は小学生になる息子と学ぶ内容は違うものの、食卓で一緒に勉強することもあります。息子がいつまで付き合ってくれるかはわかりませんが、私にとっては楽しい時間を共有しています。もちろん勉強だけでなくサッカーやサイクリングをしたり体を動かすこともしています。この子どもとの運動も心地よい活力となり、よりよい心臓リハビリテーションの提供に生かされていると思います。

リハビリ室 主任 理学療法士 高村 剛



患者さまのより近くでサポートを

入職8年目で今年3月より電子カルテ導入に伴い、心臓血管外科医師事務配属になりました。以前は病棟クラークとして請求業務が主な仕事でしたが、今は患者さまの近くで医師の補助をしております。専門的な医療用語・知識などが多く、日々勉強し診察がスムーズに進むよう努めています。

プライベートではカーブが大好きで、家族、友人や職場の仲間とマツダスタジアムへ野球観戦によく行きます。今季は惜しくもCS地元開催を逃してしまったので、来季は優勝できるようしっかり応援したいと思っています。

医師事務作業補助者 川口 真愉美

しなやかで最善の対応を心がけています

入職して6年、現在は主に小児の体外循環業務を担当しています。心臓の手術中に人工心肺装置を操作して調整し、心臓と肺の機能を代行させ、安全に手術が行えるようにサポートしています。夜間や休日の緊急手術もあって大変な仕事ですが、高い安全性と質を持って、患者さまの状態や反応、手術の進行などあらゆる因子にしなやかに対応できる最善の体外循環を提供できるよう頑張っています。

去年は子どもが生まれ、仕事、家庭ともに忙しくも充実した日々を過ごしています。家に帰り日々成長していく子どもの姿を見るのが何より幸せを感じます。

臨床工学技士 横田 篤慶





Topics



▲ 地域医療連携室スタッフ

地域医療連携室の スタッフ再編を おこないました

『Say Yes!』をモットーに、
新たなメンバーとともに
「顔の見える医療連携」を
目指します。

● 土谷総合病院

地域医療連携室 室長 荒滝桂子

今年11月より地域医療連携室のスタッフ再編をおこないましたので紹介いたします。

地域の先生方からのご紹介窓口として、3名の事務職員(1名は日本医療マネジメント学会認定医療福祉連携士)が対応しています。

「顔の見える医療連携」を目指し、当院医師と地域の先生方の勉強会や懇親会のサポートを行い、地域の先生方への逆紹介案内にも力を入れています。

このたび、新たに循環器内科 塩出部長を室長、伊美看護師長を実務管理者として迎え、ますますスムーズに医療連携ができるよう強化いたしました。特に、**当院で対応可能な急患はすべて『Say Yes!』**をモットーとしています。

また、今年3月に入退院センターを新規に設置いたしました。スムーズな入院受け入れに対応すべく、入院ベッドコントロールを担



▲ 土谷総合病院 病診連携交流会

当しています。そして、入院予定の患者様に適した入院治療を受けていただくこと、入院前からの退院調整を行なうことを目標に、専任看護師が情報の収集・提供を行い、アセスメントや相談対応・説明を丁寧に行っています。

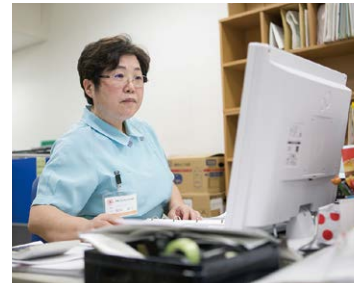
また、医療ソーシャルワーカー(3名)を中心として、転院先の検討など、個々の患者様のニーズに合わせたきめ細かい退院支援を行っています。

地域医療連携室では、今まで以上に地域の先生方とともに、患者様を中心においた地域医療連携を実践できるように努力する所存でございます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

Tsuchiya Support Section

スタッフ紹介



医事課 主任

重岡 順子

今回紹介するスタッフは、あかね会で勤続年数が一番長いと言われている医事課の主任、重岡です。年齢は秘密との事ですが、土谷院長の高校時代を知っていると聞いています。

院内でも有名なネコ好きで、机のまわりにはネコの写真やグッズがいろいろ飾ってあります。いつも仕事を忙しくしているにも関わらず、ネコの話になるといかにネコが可愛いかという事で、話がとても盛り上がります。

勤務年数が長いだけに、院内のあらゆる事を熟知している「生き字引」で、仕事の事からプライベートな事まで、いろいろ相談できるお母さんの存在です。

Column

一枚の写真

医療法人あかね会 土谷病院

この写真は昭和40年代に撮影されたものです。

当時の院長 土谷太郎が昭和41年9月、加古町の元安川沿いに116床の病院を新築し、大手町より移転致しました。その年、当院は「外科 土谷病院」から「医療法人あかね会 土谷病院」へと、姿を変えました。

あの頃を振り返りますと、お昼の休憩時間に、ドクターたちが写真の元安川でカヌーに乗っていらした情景が蘇ってまいります。

土谷総合病院 院長 土谷 治子



地域連携医紹介

地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、医療技術の向上を図ります。

清水内科・消化器科

内科 消化器科

院長 清水 哲

私は平成7年、8年間務めた土谷総合病院を卒業して開業しました。消化器科を標榜しているとは言え、末期癌や脳卒中などで寝たきりの患者さんの在宅医療も積極的に担い、在宅での看取りも日常的に行っています。病院からの紹介患者さんを在宅で診させていただく事は、悪化時や急変時の対応などで大変心強く、病診連携の重要性を痛感しています。安定期は在宅で、悪化時には病院で、その役割分担を適切に行い、患者さんにとって最善で納得のいく医療が提供できるような老体に鞭打ってもうしばらく頑張りますのでよろしくご指導下さい。

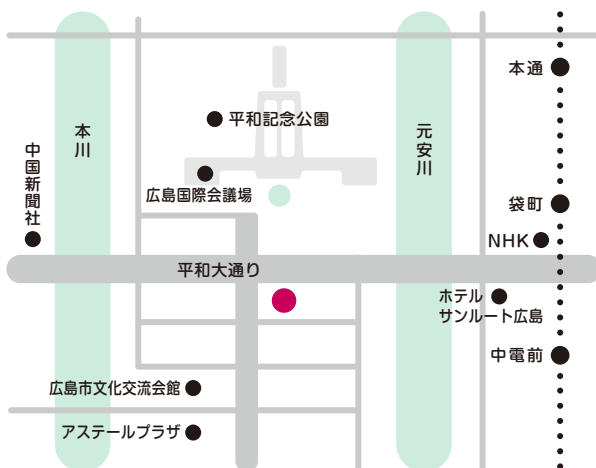
☎ 082-542-5122 Fax 082-542-5161
 受付時間 / 月・火・水・木・金 9:00~13:00、15:00~18:00 土 9:00~13:30
 休診日 / 土(午後)・日・祝日
 住所 / 〒730-0043 広島市中区富士見町12-17



医療法人 あかね会

土谷総合病院

〒730-8655 広島市中区中島町3番30号
 ☎ 082-243-9191 (代)



- **阿品土谷病院**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-5050 (代)
- **大町土谷クリニック**
 〒731-0124 広島市安佐南区大町東二丁目8番35号
 ☎082-877-5588 (代)
- **中島土谷クリニック**
 〒730-0811 広島市中区中島町6番1号
 ☎082-542-7272 (代)
- **介護老人保健施設シエスタ**
 〒738-0054 広島県廿日市市阿品四丁目51番1号
 ☎0829-36-2080 (代)

在宅事業部(介護サービス部門)

土谷訪問看護ステーション

光南 ☎082-544-2789	西広島 ☎082-507-0855
大町 ☎082-831-6651	出汐 ☎082-250-1577
佐伯 ☎082-925-0771	

土谷ヘルパーステーション

光南 ☎082-545-0311	西広島 ☎082-507-0877
大町 ☎082-831-6654	出汐 ☎082-250-5080
佐伯 ☎082-925-0770	戸坂 ☎082-502-5205
可部 ☎082-819-2250	矢野 ☎082-820-4825
阿品 ☎0829-20-3585	

土谷居宅介護支援事業所

光南 ☎082-504-3202	西広島 ☎082-507-0866
大町 ☎082-831-6653	出汐 ☎082-250-3730
佐伯 ☎082-925-1550	戸坂 ☎082-502-5215
矢野 ☎082-820-4835	阿品 ☎0829-20-3721

土谷デイサービスセンター

光南 ☎082-544-2885	大町 ☎082-831-6600
------------------	------------------

スタッフ募集

心豊かな医療を提供し、楽しく時間を共有しながらスキルアップに繋げるために、あかね会では、やる気のある方、経験豊富な方の募集を随時行っています。詳しくはホームページをご覧ください。



土谷総合病院

編集者後記

土谷総合病院では今年、色々な出来事がありました。春に入退院センターの新設と電子カルテを導入しました。全く初めての事で準備に戸惑うことも多く、慣れるまで時間がかかりました。夏にはハイブリッド手術室が完成し、10月には広島県では初となるTAVI治療を開始しました。また病診連携の会では開業医の先生方との交流会も行われました。院長の「一枚の写真」の記事を読んでいると、最初は小さな病院が、時代の流れとともに随分と大きくなったなあと感じます。今年は、病院全体がまたひとまわり成長した1年となったように思います。 本部事務局



医療法人あかね会 本部事務局

〒730-0811 広島市中区中島町4-11
 ☎ 082-245-9274
<http://www.tsuchiya-hp.jp>
 2014年12月発行